

はじめに

本教科は、中学校及び高等学校教諭教育職員免許状(保健体育)取得を志望する学生の必修科目である。初等体育科教育法と関連づけながら、ここでは、(1)保健科の目標、内容、方法など、基本的な知識を身につける。(2)教材研究や学習指導計画、学習指導法について理解を深める。(3)評価法について理解を深める。を目標にしている。受講者(32名、うち1名は松山大学生)のほとんどが2回生であるので、具体的かつ実践的な内容を組み立てている。

その構成は、前半は子ども理解、教科書研究、後半は6回にわたる保健模擬授業が中心であり、学生の活動を多くして展開した。本報では、最終回の授業でそれぞれが発表した総括(要約)を中心に報告することにしたい。

1 保健の授業づくりで大切で大切なこと

①保健体育科教育法Ⅱを受講して自分自身多くのことを学び、深く広く其の分野を学んでいく必要があると思われ知らされました。日常生活で保健分野はとても重要なことであるし、私自身が間違った知識や偏見を持っていると、子どもたちは薄い知識を獲得してしまうかもしれないので、努力を惜しまない教師でありたいと思いました。(達人)

②保健の授業では知識を教えるだけでなく、より日常生活とリンクさせた授業づくりが大切である。また、子どもたち一人一人の家庭環境が違っているため、そのことを配慮した授業をしていかなければならない。保健では

「命」をとりあつかうため決して保健を軽視してはならない。その重要性の認識は、私自身、この授業を受ける前と後では大きく変わったと思います。この授業で得たことを教育実習に活かしていきたいです。

③みんなの意見を聞いて、やはり「知識を言う」授業ではなくて、「伝えて、実践できる」授業をすることが重要であり、教師に求められるんだと思った。インパクトがあって、理解しやすい教材づくりができるようにしっかり学び、本質を理解する必要がある。また、自分自身の体験談などを加えることで、よりよい授業になる。多くのことに挑戦して色々なことを吸収することが、今の私たちには大切だと思う。

④今日の授業で、みんな保健に対する意識が変わったことがわかりました。私も最初は授業受けてるイメージで、保健の授業はつまらんし、先生も適当に話しているんだろうと思っていたけど、実際は工夫をすればもっともっと面白い授業になると思うし、生徒が興味をもってくれるだろうなと思いました。実習で授業をする機会があるので、この授業で学んだことを生かしたいと思います。(由佳)

⑤保健の授業は生活に直結してくる内容なので、子どもが授業を受けたあとで「この授業を受けてよかった」と思えるような授業をしたい。保健の授業が人間力を形成していくといっても、私は過言ではないと思う。(拓己)

2 保健では何のために、何を、どう伝えるか
自分が保健の授業づくりをする中で生徒たちに何のために、何を伝えるのか、まとめたいと思います。

まず 1 つ目は、正確な知識を伝えたいです。教師として当たり前のことであるとは思いますが、教科書研究をしていく中で教科書が必ずしも正しいというわけではないということが分かりました。また模擬授業を行うなかでも正確な知識の必要性を強く感じました。私自身、たった 30 分の模擬授業をするために何倍もの時間をかけて、教材研究、授業構成を行いました。トップバッターということで模擬授業を行うことは難しかったのですが、教えるということに責任もあると思います。もし今回の模擬授業を実際の中학생に対して行った場合、理解を助けるものにならなかったと思います。まず私(教師)からの新しい知識の提供がなかった点が問題点として挙げられます。更にグループで話し合う機会をもっと設け、その中で巡回するといったテクニックを身につけたいと思います。楽しく分かりやすい授業を行うためには、興味付けの工夫や板書の書き方も工夫しなければならないと思い、導入や脈拍測定を工夫したが、もっと工夫するべきだと感じました。授業前の準備の段階で山本先生にアドバイスをもらいに行く等の積極的な姿勢をもっと出さなければならないと感じました。まだ、自分には一人で授業を行う力はないと痛感したので、今後は先生方に助けてもらいながら、自分で授業を構成する力を身につけたいと思います。

2 つ目は、仲間の大切さを伝えたいのです。最近のニュースのなかでも自殺者が過去最大になっている問題を耳にしたし、いじめなどの問題も以前からよく耳にします。それだけ孤独に感じている人や一人で悩んでいる人が増えているのだと思います。よく体育祭やスポーツを通して仲間の大切さや喜びを感じると思いますが、その思いを保健の授業を通して感じてもらいたいと思います。例えば病気の問題を

取り上げたとしても、感染の問題は自分だけにあるのではなく、環境の問題や周囲の人の問題もあるわけです。更に私が模擬授業を行った心身の健康の分野でも、心と体を一体ととらえることを中心に、仲間の重要性につなげていくことも大切であると思います。決して人間は一人で生きていけるはずはなく、知らない間にたくさんの人に支えられているということ、また自分も支えているということを教えてあげたいです。そこから仲間や家族を大切にすること、そして自分も大切にすることを伝えたいのです。自分自身を振り返ってみても、中学生は心や体の悩み、人間関係の悩み、勉強や部活動の悩みなどたくさんの悩みが出てくる時期だと思います。そこで保健の授業を通して悩みをクラスの友達と共有し、解決していくことでより健全な生徒の育成ができると思います。

最後に、保健の授業の大切さを感じたのでそれを伝えたいです。大学の教育保健や保健体育科教育法Ⅱを受講するなかで保健分野の重要性を強く感じるようになり、子どもたちにこの思いを伝えたいと感じました。保健の分野に興味を持つ子や体育の時間と同じくらい積極的になってくれる生徒が増えるようにすることが、幸せな人生を送る第一歩になるのではないかと感じました。

私は将来、保健体育科の教師になろうと考えています。先生になったら保健分野の知識をしっかり蓄え、自らの中で整理しておきたいと思います。この授業を受講する中で、人と人のつながりの大切さを学びました。(直哉)

おわりに

この授業では、講義、グループによる教科書研究、そして領域別の模擬授業と、学生の活動を重視しつつ実践力の涵養をめざして進めてきた。そこで問われたのは、教師自身の研究心、同僚性であった。

体育科教育法との協働はもちろん、附属中学校など、現場教師との連携を深めていきたいと切に願うものである。